2025 年度

SGT　活動レポート

陶芸講座
第 3 回

9 月 3 日（水）、中高選択者による陶芸講座の第 3 回が 4 階技術家庭科室を会場で行われました。

今回は、花瓶の彩色と釉掛けです。本校の窯を使い、800℃で焼かれた花瓶に彩色していきます。最初はまず花瓶の下処理です。花瓶の中に入ってしまった粉状のかけらをきれいに取って出します。次に花瓶の底の部分と底から 5mm 位のところに撥水剤を塗ります。この部分には釉薬が着かないようにするためです。ここまで出来たら塗料を装飾部分に塗っていきます。塗料は、2 種類あります。一つは、銅や鉄の粉で作られたもので　もう一つは鉄の粉を原料に作られたものです。生徒たちは、装飾部分に面相筆を使い、丁寧に塗っていきます。銅を原料とする緑色の塗料は、焼き上がると滲んだ感じで仕上がります。鉄を原料とする塗料は薄く塗ると黄色く、だんだん濃くなると茶色から黒になるとのことでした。彩色が終わったら釉掛けです。釉薬とは、陶器をガラスでコーティングするための液体です。灰や鉄を含む黄土などが入っています。生徒たちは、林檎先生の指示に従い、釉薬が入った樽の中に花瓶を 3 秒間漬けて取り出します。一旦、テーブルの上に置いたあと手を洗い、指の痕がついた箇所を筆で釉薬を載せるように塗っていきます。これが乾いたたら花瓶の底についた余分な釉薬をスポンジを使い、丁寧にふき取ります。これで本日の作業は終了です。あとは本校の窯を使い、1230 度で本焼きをして出来上がりです。

今年の釉薬は市販のものではなく、今井林檎先生が試行錯誤して作られたもので伝統的な美濃焼の手法を取り入れた釉薬とのことでした。また使われた粘土も美濃焼で使われるものだそうです。

次回第 4 回は、9 月 10 日(水)です。焼き上がった作品をきれいなクロスの上に置き、装飾品と合わせて写真を撮影します。完成が楽しみですね。

本日の作業工程についてお話を聞きます。

彩色用の塗料です。銅の粉を原料とするもと鉄の粉を原料とするものがあります。

2 種類の釉薬です。

花瓶の中に入り込んだ余分な粉をまず取り除きます。

花瓶の底の部分を中心に撥水剤を塗り、釉薬が着かないようにします。

彩色をします。みんな真剣ですね。

とても面白いデザインですね。

釉薬は沈殿しやすいので釉掛け前にしっかり撹拌します。

花瓶を横にして中までしっかり釉薬が入るようにして 3 秒間付漬けます。

逆さにして余分な釉薬を戻します。

底の部分についた余分な釉薬をスポンジできれいにふき取ります。

完成です。これを本校の窯を使い 1280℃で本焼きします。